

食品の生産・流通構造の変化を踏まえた農産物供給のあり方に関する分析 (所内プロジェクト研究)

1. 研究目的

今後の少子高齢化等の社会構造の変化は、食料品市場の一層の成熟化をもたらすと予想され、この中で、食品産業及び農林水産業等には、消費者ニーズへのきめ細かな対応など消費者起点の発想が従来にも増して求められるようになると思料。また、今後見通される世界の食料需給の変化に鑑みると、我が国における食料の効率的、安定的な供給の必要性が増大。このような課題に対応するためには、食料品のサプライチェーン全体の取組が必要であり、国内農林水産業生産はこのような取組の中に適切に位置づけられることが重要。

このため、食料を取り巻く状況の変化が食品製造業、外食産業、食品流通業及び農林水産業に与える影響を分析するとともに、その中でそれぞれの産業が抱える課題を解明。

2. 研究内容

(1) 社会構造や世界の食料需給の変化による影響の分析

少子高齢化等による社会構造の変化や世界の食料需給の変化が食品製造業、外食産業、食品流通業、農林水産業等に与える影響について、ヒヤリング、アンケート調査により、食品産業側、農林水産業側の両面からアプローチするとともに、主要品目について可能な限り定量的に分析し、将来を予測。その上で各部門の課題を抽出。

(2) 市場流通と市場外流通の機能と効率性の分析

青果物については、(1)の分析と併せ、流通に大きな地位を占める卸売市場にも焦点をあて、市場流通と市場外流通の機能と効率性の違いについて比較分析し、将来を予測。卸売市場の課題を抽出。

3. 研究成果の活用方法

今後の流通再編のための基礎資料として活用。

平成22年度中に策定する必要がある卸売市場整備基本方針の検討に活用。